



年長組学年だより No.8

令和3年12月7日

中央区立月島第一幼稚園

そら組担任 西 智恵美

## ～うきうきステージ特集号！～

うきうきステージ当日がいよいよ近づいてきました！「自分たちが演じていて楽しい♪お客さんも見ていて楽しい♪」…そんな劇を目指し、表現の方法、台詞、衣装、大道具や小道具を友達と話し合いながら活動を進めてきました。今回の学級便りでは、今日までの子どもたちの取り組みの様子をお伝えいたします。

### 昔話「わらしべ長者」のあらすじ

貧しい暮らしをしていた若者は、観音様に「運を授けてほしい」とお願いします。観音様から「はじめに拾った物を大切に旅に出よ。」と教えられた若者は、はじめに拾った藁しべ（わらしべ）を持って旅に出ます。そこで出会った子どもに「わらしべがほしい！」とおねだりされた若者は、こころよく子どもにわらしべを譲り、そのお礼にみかんを手に入れます。その先も出会う人たちによって、みかんが布に、布が馬に…と次々に交換され、最後はなんと、豪邸を手に入れることに。若者はめでたく、豊かな暮らしを得るのでした。

### そらぐみ わらしべちょうじゃ

昔話「わらしべ長者」をアレンジし、そら組バージョンのお話を作りました。観音様の教えを聞いて旅に出た若者が最初に手に入れるのはなんと「ペンギンショーのチケット」でした！旅の途中、たくさんの愉快的仲間たち（すみだ水族館のペンギンと飼育員、恐竜博士、忍者、悪い魔女、警察官、ぐりとぐら、歌手、サンタクロース）に出会います。さあ、貧しい若者は、豊かな生活を手に入れることができるのでしょうか！？



## ☆はじまりは遊びから☆

わらしべ長者に登場する役は、幼稚園のごっこ遊びでなりきって遊んだことがあるものや、みんなで親しんだ絵本等の中から、やってみたいものを自分たちで選んで決めました。うきうきステージは日頃の遊びの延長にあるものとして、子どもたちには、ステージの上でも遊びの時と同じように、のびのびとなりきって表現することを楽しんでほしいと願っています。



すみだ水族館への遠足で見たペンギンになりきって遊んでいます。



恐竜の世界「ジュラシックワールド」を作っています。「これはアンキロサウルスだよ！」と自分の知っている恐竜について友達と会話を楽しみながら遊びを進めています。

サンタクロースに変身！寝ているふりをしている友達に、そっとプレゼントを届けています。



## ☆演じてみよう！☆

初めは7つのチームに分かれて「劇の中でどんな役を演じてみたいか」「そのためにはどんな物が必要か」を話し合い、決まったチームから実際に演じてみました。これまでも遊びの中で「自分の考えを友達に伝える」「相手の話を聞く」という経験を積み重ねてきた子どもたち。この話し合いの中でも「こんな風にするのはどう？」という面白いアイデアや「それいいね！」と友達の考えを受け入れる姿がたくさん見られました。



自分たちがお客さんの立場で劇やお芝居を観る機会（PTA 主催の観劇会）からも、とてもよい刺激をもらいました。

グループごとの表現が決まった後は、お話の最初から最後までを通して演じることにチャレンジ！これまでの「自分たちが演じて楽しい」段階から、「お客さんに楽しんでもらう」段階へとステップアップしていきました。そのためには、自分のセリフを大きな声で言うこと、友達と息を合わせることなど、たくさんのポイントを意識する必要があります。活動を積み重ねていくうちに「前はできなかったところができるようになった！」「ここのセリフを覚えたよ！」と、一人一人の成長が見られ、とても嬉しく感じています。



## ☆劇に使う物を作ろう☆

役が決まった後は、お話を進める上で必要な大道具や小道具を友達と一緒に考えて、一つ一つ丁寧に作っていきました。また、ほとんどの衣装は一枚の不織布から子どもたちが自分で型紙を取り、はさみで切る、ホチキスで脇の部分を留めるなどして作っていきました。色や形などのデザインに一人一人のこだわりが表れています。

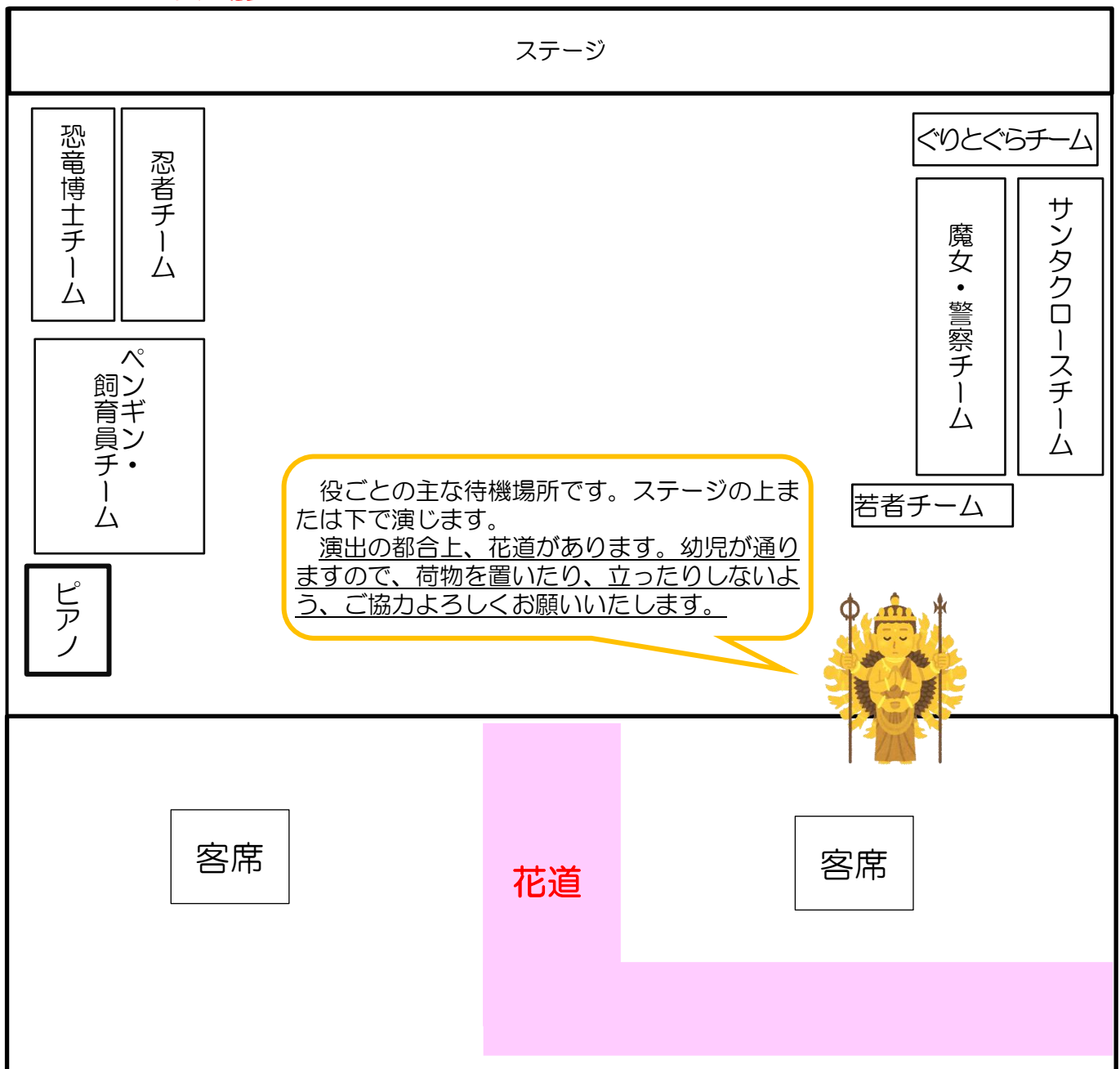


役に合わせて「こういう形の服にしたい!」「こんな飾りをつけてみたい」と、一人一人がイメージしたことを形にするために丁寧に作っていました。自分で作った衣装は愛着もひとしおです。

劇の中には、何日も掛けて丁寧に作った小道具が登場します。恐竜博士が持っている「恐竜の卵」は、風船の張子の技法を使って作りました。

また、「折り紙が上手な〇君に作ってもらおうよ!」「見本を〇ちゃんに描いてもらおう」と、友達に頼みに行く姿も見られました。友達の特技や持ち味を一人一人が理解しているからこそその姿です。

## ☆当日の会場図☆



## うきうきステージを通して、育んでいきたいこと

10月のうきうきオリンピックを成功させ、学級のみんなでひとつの目標を達成する満足感を味わった子どもたち。うきうきステージではさらにステップアップして、子どもたちにこのようなことを経験してほしい、という願いを込めて活動を進めてきました。

### ☆一人一人が自分の持ち味を發揮し、教師や友達から認められ、自分に自信をもつこと

セリフを覚えて大きな声で言うことが得意な子、ひとつひとつの表情を豊かに表現している子、大きな段ボールを切って大道具を作るのが得意な子、いつも面白いことをひらめいて提案してくれる子、大道具運びや音響、観音様の声などの仕事に燃えている子…など、そら組一人一人の持ち味は十人十色。自分の得意なことを發揮し、友達に認めてもらう経験を通して、さらに自信を付けていってほしいと考えています。

### ☆少し難しいことにも挑戦してみようとし、できなかったことができるようになる達成感を味わうこと

そら組初めての通し練習に掛かった時間は、なんと65分！セリフや立ち位置は決まったけれど、それをまだ覚えきれていないがゆえに時間が掛かっていました。しかし、回数を重ねるごとに「前は迷っていたところを、今回は自信をもってできた！」という箇所が一人一人に増えてきました。たった一言のセリフでも、タイミングを覚えて大きな声で言うことは、子どもにとっては大きな挑戦です。当日は、一人一人に心からの応援をお願いいたします！

### ☆学級全員で考えを出し合い、ひとつのものを作り上げる充実感を味わうこと

うきうきオリンピックの競技や演技は、教師がある程度内容を決めてからスタートし、学級のみんなで目標を共有して取り組むという経験ができるようにしました。うきうきステージの劇では、子どもたち自身が決められるよう、より自由度を高くしました。みんなでアイデアを出し合い、そら組だけのオリジナルストーリーを完成させていく過程で、「みんなの力を合わせるとこんなにすごいことができる！」と感じてほしいと願っています。

## 劇で見ていただきたいところ

- \*大道具の出し入れ、効果音、挿入歌など、自分の出番だけでなく、劇をつくり上げるために様々なことを子どもたちの手で行っています。どれも欠かせない大事な役割です。役によってセリフや出番に多少差がありますが、みんなで心をつなげてお話の世界を創り上げている姿をご覧ください、保護者の皆様にも楽しんでいただけたらと思います。
- \*年少、年中組の時からステップアップして、友達と一緒に話す言葉の他に、一人で言う言葉もあります。緊張しながらも頑張っていますので、聞き逃さないよう耳を澄ませてお聞きください。
- \*これまで、保護者の方にもみてもらうことを楽しみにして、毎日の取り組みを頑張ってきました。当日は大勢のお客さんの前で、緊張することが予想されます。そら組みんなで心をつなげて創り上げてきた姿を想像し、温かく見守りたくさんの拍手をお願いいたします。



うみ組をお客さんとして招待し、劇を披露しているところです。「面白かった!」「もう一回見たい!」と褒めてもらうことが、子どもたちの自信に繋がっています。

当日をお楽しみに!